

## 活性汚泥法(かっせいおでいほう) | Activated Sludge Treatment

有機物を含む廃水処理において、先ず廃水中に空気を吹き込み(エアーレーション)、微生物を繁殖させて綿状の汚泥(これを活性汚泥という)を造る。汚泥は廃液中の細菌や微生物からなる吸着性に富む物質からなっている。続いてこの汚泥を別の廃水中に混ぜて空気を吹き込み、充分混合した後、廃液を沈降分離すると透明な処理液が得られる。用いた汚泥部分は返送して再び同様の廃水処理を繰り返す。この方法は主にデンプンや食品加工場などから出る有機物を含む廃水の処理に適しており、特に廃水の BOD(生物化学的酸素要求量)の低下に役立つ。

(古澤)